

# 泉田参考人提出資料

厚生労働科学研究費補助金事業

「医療及び介護の総合的な確保に資する基金の効果的な活用のための持続的な評価と計画への反映のあり方に関する研究」

2017年9月7日

医療介護総合確保促進会議

国立社会保障・人口問題研究所  
社会保障応用分析研究部長 泉田 信行

# 厚生労働科学研究について

1. 研究班の名称 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))「医療及び介護の総合的な確保に資する基金の効果的な活用のための持続的な評価と計画への反映のあり方に関する研究」

2. 研究期間 平成27年度～平成28年度

3. 研究班の構成(所属は平成28年度末)

○研究代表者

泉田 信行 国立社会保障・人口問題研究所

○分担研究者

小野 太一 政策研究大学院大学

川越 雅弘 国立社会保障・人口問題研究所

野口 晴子 早稲田大学政治経済学術院

石川 ベンジャミン 光一 国立がん研究センター

○研究協力者

森田 朗 国立社会保障・人口問題研究所

大津 唯 国立社会保障・人口問題研究所

- 促進会議の議論を踏まえ、地域医療介護総合確保基金の評価指標を検討
- 研究会議10回開催:各回に厚生労働省各局担当者がオブザーバ参加
- 16都道府県にヒアリング調査を実施

# 研究班の目的及び作業方針

## 1. 研究班の目的

- (1) 「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」第六条による基金の仕組みが、効果的・効率的に活用されるために必要な、持続的な評価の方法、それに使用される評価指標等を作成すること
- (2) 都道府県における「基金事業」の実施サイクルの実際を明らかにすること

## 2. 指標例検討に際しての基本的な考え方(概略)

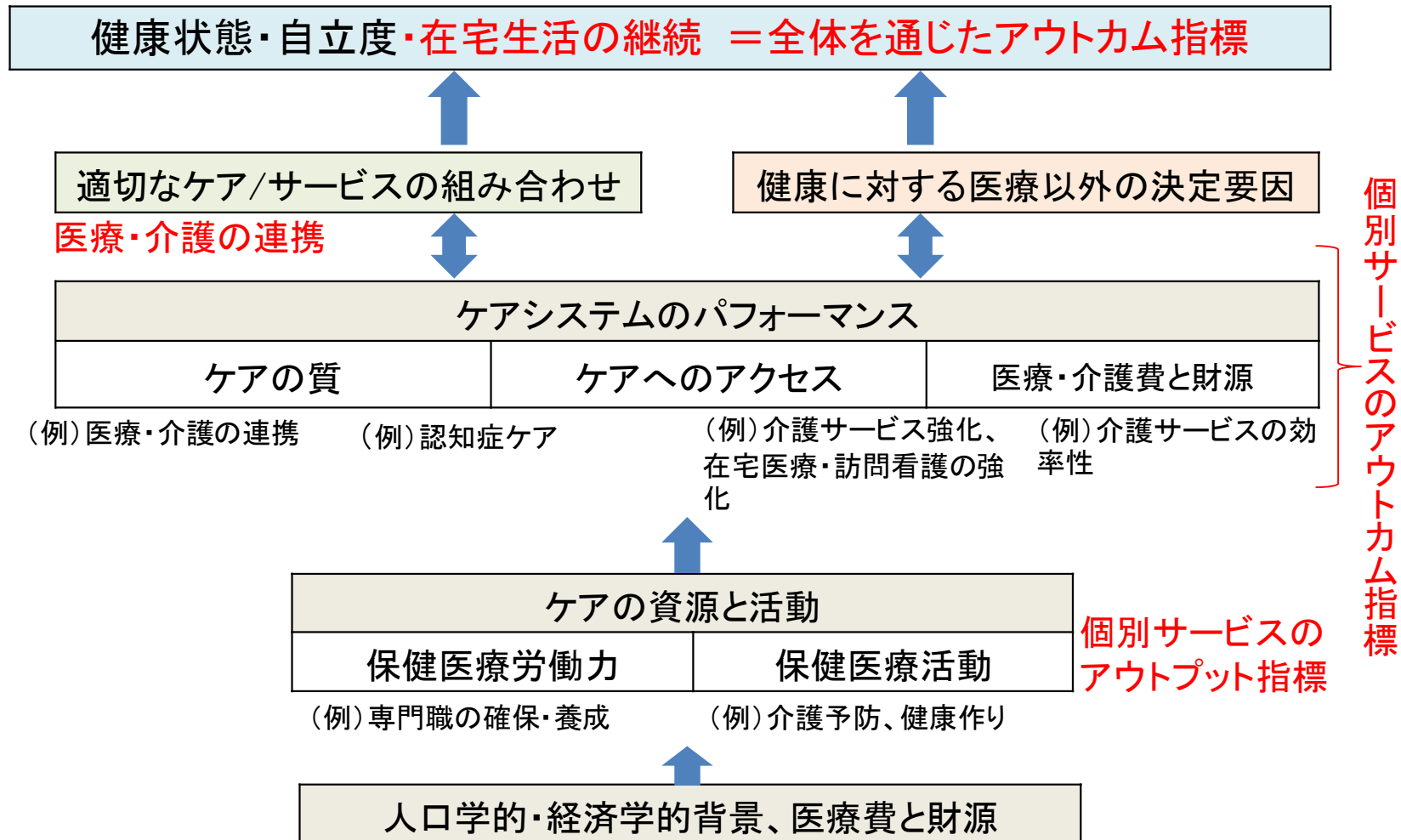
- (1) 都道府県による主体的なマネジメントに資するものとする。
- (2) 都道府県が主体的に指標を設定するのを妨げるものではない。ただし、都道府県が独自の指標を設定する場合は本指標例と同様の性質である必要がある。

## 3. 指標の構成・性質(概略)

- (1) 個別の事業についてのアウトプット指標とアウトカム指標、及び連携指標が設定される。
- (2) 個別基金事業の達成はアウトプット指標として測定される。
- (3) アウトカム指標は、事業実施～事業アウトプット産出により、患者・住民や地域にもたらされると期待される変化である。地域医療構想、医療計画、介護保険事業支援計画中に記載される項目を含む指標で測定される。
- (4) 医療・介護の連携は、適切なケア/サービスの組み合わせの達成として捉え、連携の基盤整備側面、連携の場面・傷病別の側面から評価するものとした。

# 評価指標の構成

概念枠組み: ケアのパフォーマンス評価における医療・介護の連携の位置づけ



(出所) OECD (2015)\*を参考に研究班が作成。

(\*) Health at a Glance 2015: OECD Indicators, OECD Publishing, Paris.

# アウトプット指標例

## 1. 考え方

- (1) 基金事業が産出するもの「そのもの」を測定
- (2) 事業ごとに適切な指標があり得る。
- (3) 都道府県が個別に適切に指標を選択することが重要
- (4) アウトプットを定量的に測定することを基本とすることが重要

## 2. 指標例

- (1) 医療分(事業区分1,2,4)は21種類、介護分(事業区分3,5)は25種類の事業の指標を例示
- (2) 具体的な指標例は参考資料(平成28年度 総合研究報告書)を参照

## 3. 指標例設定の例

- (1) 在宅療養支援診療所整備事業 → 新たに整備する在宅療養支援診療所の数
- (2) 人材育成に取り組む事業所の認証評価制度実施事業 → 認証を受けた事業所数
- (3) 訪問看護職員研修事業 → 研修参加者数

# アウトカム指標例

## 1. 考え方

- (1) アウトカム指標は事業実施により、患者・住民や地域にもたらされると期待される変化を測定・把握。
- (2) 地域のニーズを踏まえたアウトカムを設定し、それに最も好ましい事業(インプット)選定を行うという思考を取ること。(ロジックモデル)
- (3) 基金事業の評価に際して用いる指標や目標と医療計画、介護保険事業計画等で用いるものとを一体化し、共通のスケールに沿って管理できるようにすることが望ましい。
- (4) 都道府県が個別に適切に指標を選択することが重要(研究班は指標「例」を例示)
- (5) 毎年実施される、医療圏ごとに結果が公表される公的統計から指標例を作成(原則)

## 2. 指標例

- (1) アウトプットと同様に事業ごとにアウトカム指標を例示
- (2) 具体的な指標例は参考資料(平成28年度 総合研究報告書)を参照

## 3. 指標例設定の例

- (1) 在宅療養支援診療所整備事業 → (例)在宅療養支援診療所数[地方厚生局]
- (2) 人材育成に取り組む事業所の認証評価制度実施事業  
→ 介護サービス従事者数[介護サービス施設・事業所調査]
- (3) 訪問看護職員研修事業 → 訪問看護利用者数[NDB、介護給付費実態調査]

# 医療・介護連携指標の構成

- 考え方：  
医療・介護の連携は、適切なケア/サービスの組み合わせの達成として捉え、連携の基盤と場面や傷病ごとの連携について評価する。
- 医療・介護連携の基盤整備に関する指標
  - 医療機関・介護事業所相互の連携、地域包括ケアシステムの構築、医療・介護連携の促進のための研修
- 医療・介護連携の場面・傷病別指標
  - 退院支援(例:入院時情報連携加算算定件数[介護給付費実態調査])

## 医療計画の5疾病に対応

- **がん(終末期)、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患**

例:がん患者の在宅死亡割合  
[人口動態統計]

例:心臓リハビリテーションが可能な  
医療機関数[地方厚生局]

- 骨折、肺炎
- 在宅療養支援
- 在宅での看取り

例:在宅ターミナルケア加算の算定  
件数[NDB]

ロコモティブシンドローム、フレイル、肺炎、大腿骨頸部骨折等については、医療計画に記載すべき5疾病に加えることとはしないものの、その対策については、他の関連施策と調和をとりながら、疾病予防・介護予防等を中心に、医療・介護が連携した総合的な対策を講じることが重要である。

医療計画の見直し等に関する検討会  
(平成28年12月26日意見のとりまとめ)

- 具体的な指標例は参考資料(平成28年度 総合研究報告書)を参照



# 指標の活用・改善に向けて

## 1. 評価が実効的に行われるために

- 実務に耐える評価枠組み・指標例を構築する必要
  - ・毎年実施・公表される公的統計など利用しやすい統計からアウトカム評価を作成
  - ・複数年にわたる事業の適切なアウトカム評価も必要

## 2. 基金事業が効率的・効果的に実施されるために

- 患者・住民の立場からはアウトカムが重要
- そもそも基金事業は手段(地域において効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに地域包括ケアシステムを構築することを通じ、地域における医療及び介護を総合的に確保)
- 事業を選定する際にロジックモデルが明示されることが重要 → 発想の転換が必要  
(都道府県(市町村)計画のフォーマット及び事後評価改定フォーマット)  
(基金事業計画の事前・事後評価のための工程チェックリスト案)

## 3. 医療・介護連携のより適切な評価に向けて

- 医療・介護連携は、今後も発展・変化 → 評価枠組・指標例を使いながら改善していく必要性
- 国全体を俯瞰した評価 ↔ 地域の現状を踏まえた評価

## 4. 基金事業のさらなる発展に向けて

- 公的統計の整備の必要性: 指標が活用されるために、公的統計は二次医療圏単位、可能であれば市区町村単位を地理的範囲として一次集計として公表されることが望ましい。
- ロジックモデルの学術的な検証の必要性: アウトカムの達成に、より効果的な事業は何か